

新たな生活施設を探る

「終の住処」に
鼎談と討論会
豊橋で「全施連」全国大会



長理事岐由するつあい
＝ロワジュールホテル豊橋で

「第10回記念 全
国知的障害者施設家
族会連合会全国大会
橋で開幕。北海道か

ら鹿児島までの会員
ら約500人が参加
し、情報・意見交換
を行った。22日まで。
知的障害のある当
事者の家族らで作る
全国知的障害者施設
家族会連合会（全施
連、由岐透理事長）
主催、東愛知新聞社
など後援。愛知での
全国大会は初めて。
施設から地域生活

へと、障害者支援の
移行が進められる
中、障害程度や肉親
の高齢化、地域環境
など多様な理由で施
設に頼らざるを得な
い家族も少なくはな
い。しかし、従来の
ままでは良いと思っ
ているのではなく、全
施連では知的障害者
の終の住処（すみか）
としての「新しい形

の施設生活のあり
方」を模索、具現化
への活動を進めるべ
く努力している。

全国大会でもここ
数年は同テーマを基
本に展開。開会式で
は由岐理事長が、障
害のある人が安心し
て生活できるための
環境づくりができる
社会を目指し、「今
こそ全施連の出番」
と参加者に積極的な
活動を呼びかけた。
この日は由岐理事
長による情勢報告や、
「新たな生活施設の
具体像」を主題に基
調鼎（てい）談を行
った。鼎談後は、10



約500人が参加した全国大会一同

回記念として討論会
を企画。鼎談の内容
を受けて参加者が小
グループに分かれて
意見交換し合った。
22日は討論会報告
とまとめを行う。
（田中博子）